



芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2006・1 創刊号 No.1



メールアドレス : ashiya@sjc.ne.jp

芦屋公園の葉ぼたんとひよどり
撮影 笹部成雄 (会員番号873)

新年 祝 創刊

新年明けましておめでとうございませう。皆様方におかれましては、お健やかな新春をお迎えになられたことと存じます。

また、このたびは社団法人芦屋市シルバー人材センターの会報が創刊されましたことを心からお祝い申し上げます。

さて、21世紀を迎え、私たちを取り巻く環境が大きく変化してきていることは皆様も実感されていることと思います。

社会経済情勢をみてみましても、国際化、情報化、高齢化がどんどん速くなってきている状況であり、特に、我が国では、急速な少子高齢化が進み、2007年から団塊世代の退職が始まります。

新年明けましておめでとうございませう。皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素はシルバー事業の運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度、念願の芦屋市シルバー人材センター会報を創刊することができました。

この会報の創刊に

当たっては、会員の手による会員のための「会報」であるべきではないかというご意見の中で、「会報編集準備会」が立ち上がり、自主的に活動され何度も会合を持つてこのような素敵な会報になりました。準備会の皆様には貴重な時間を割いていただきまし



芦屋市長
山中 健

高齢化対策を最優先

本市におきましても、高齢化率が20%を超えており、高齢化対策が最優先課題でもあります。

そのような中、「自主・自立・共働・共助」の理念の下、高齢者の知識、経験、能力を發揮させ、積極的に社会参加いただける場

を提供いただいている社団法人芦屋市シルバー人材センターの存在がますますクローズアップされてきていることを実感しております。

行政としましても、地方分権、三位一体、行政改革の中、厳しい状況ではありますが、

たこと、紙面を借りてお礼を申し上げます。

また、この会報「はつらつ芦屋」が会員間の大切な情報伝達機関として継続していくため、新たに「広報委員会」を設置し、準備会の皆様に委員をお願い致しました。会員の皆様に親しみの持てる明るく楽しい

理事長
林 一夫

念願の「会報」を発行

会報が引き続き発刊されることを願っています。

シルパー事業の基本理念は「自主・自立・共働・共助」です。生活している地域を単位に連帯し、共に働き共に助け合っていくことを目指して、自主的な組織参加と

社団法人芦屋市シルバー人材センターをはじめとする多くの事業所や団体、そして市民の皆様と参画・協働し、明るく元気なまちづくりを進めてまいりたいと思っております。

どうか、皆様方も、様々な形で地域活動に貢献いただくとともに、会員相互の親睦

すことを心からお祈りしております。

最後になりましたが、社団法人芦屋市シルバー人材センターのますますのご発展と皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

労働能力を發揮することにより生きがいの充実を図ろうとするものです。

会報の自主的運営による発刊と共に長年の懸案であった「地域班」も昨年12月に組織され、センターと会員及び会員相互の連帯意識と親睦の高揚が図れるものと存じます。

これらの活動が当センターの今後の発展に寄

与するものと期待しております。

本年の皆様にとって健康で幸せな年でありますよう心からお祈りし、ごあいさつといたします。

兵シ協事業推進大会

中原会員
意見発表

体験談に大きな拍手



男性家事サービスの体験を披露する中原会員
(会員番号786)

なによりも、利用者さんが笑顔で喜んで下さるのが生き甲斐の一つになっております。

お蔭で自分の知恵も含めた仕事品質アップ効果を、たまに我が家で発揮しますと、私の現役時代批判の多かった家内が一番驚いているようです。

今後の目標は、介護事業に入っていくのが理想ですが、当面便利班の名前の通り「都合よく、上手く役立つ」ために、多くの技能の取得、向上に努める事があります。その為には教育の場

たかが窓拭き、されど窓拭き

ら介護関連の高まりと軽度生活援助事業が始まったことから、力仕事や汚れのきつい仕事が増え、男性の協力なしではサービス提供が出来なくなりました。丁度その頃、私はホームヘルパー2級の講座を終了したので、メンバーの一員に加えていただきました。しかし、実際の仕事は窓拭きばかりが続く、一時は正直戸惑いました。幸いな事に研究熱心な先輩がいて、真剣にガラスを磨いて見せてくれ、何事も誠意で取り組むことの大切さを痛感。「たかが窓拭き、されど窓拭き」。網戸、雨戸、敷居の清掃など、道具・洗剤・拭き方・出来栄へのチェック方法に工夫を重ねる面白さが判ってきました。

兵庫県下の各センターが10月28日、神戸・松方ホールに集い、平成17年度の兵庫県シルバー人材センター協会事業推進大会が開かれました。当センターから平田会員ら9名が10年の表彰を授賞。また中原会員が阪神ブロックを代表して「男性家事サービス班に携わって」と意見発表。エピソードを交え熱の入った語り口に、会場一杯に拍手が響きました。また、ロビーでは作品の即売もあり、賑やかな雰囲気にもまれ交流の輪が広がりました。

中原会員の発表要旨は次の通りです。



永年会員表彰を受ける各センター代表

講習会は華盛り

技術と知識を身に付け、より細やかな対応を……。今年度は福祉・家事援助サービス、緑樹保全、そして初めて屋内清掃の講習会が開かれ、延べ会員197名が受講、成果を上げました。これから各種の講習会が開催されますので、一人でも多く参加しましょう。

家事援助

質の高いサービスを目標に10月

19日から3日間開かれた講習会では、林理事長から「個人情報保護」。「認知症の理解と支援」は田中秀美氏が講演。2日目は、東朋子氏の基本的接遇マナーで、話し方・聞き方は上手下手ではなく技術です、との講義が印象的でした。

『生きがいについて』の一分間テスト会員相互のトークは大変参考になりました。



3日目は、在宅栄養士会の米田、内田先生による料理講習で締めくくりです。

さすが、女性でベテランの皆さんだけあってメニューの飲み込みも早く、連携プレイも鮮やか。

たちまち500カロリー、栄養満点の献立がずらり。(写真上) もちろん試食で、賑やかなおしゃべりと共に舌鼓を打って、美味しくいただきました。

緑樹保全

11月24日は市民センターで、事務局から講習会の目的、作業手順、特に安全についての説明。2日、3日目は晴れ渡った秋空のもと総合公園で除草の野外実習に移りました。

宮園、山本会員からカマの使い方、草の種類別に根つこの引き抜きなど手作業のコツを習得。



仕上げは、椎屋、狩元会員による刈払い機の使い方指導。

小さなエンジンで手軽に扱えますが、高速回転で草を薙ぎ払う威力はかなりのもの。生い茂った草むらもアツと言う間に片付きます。それだけに接触や飛び石など非常に危険で、取り扱いはくれぐれも慎重に(写真右)。

バランスの取り方にも練習が必要ですが、真剣に取り組んだ受講者はかなりの上達ぶりでした。

屋内清掃

「たかが掃除」というなかれ。プロともなると、かなり厳しいものがあります。

「挨拶のできない人は我が社ではやめてもらいます」。まず、マネーの必要から説くのは関西建物管理(株)の井上さん。

掃く、拭く、磨く、の基本から作業の手順、タオルの絞り方、道具の種類、持ち方、洗剤の説明に至るまで、さすが競争の激しい業界を生き抜く専門家の言葉には説得力があります。

11月24、25日に開かれた講習会では約50名の会員が熱心に聞き入りました。道具の使い方、特にモップについては、拭き方、絞り方の要領を実習(写真左)。「ざれど掃除」を体得することが出来ました。





湯の花温泉も紅葉が出迎え

秋の研修バスツアーは11月22日、京都・美山町かやぶきの里北村へ66名が参加して行われました。国の伝統記念物として築二百年の「かやぶき」が38棟も保存され、紅葉真っ盛りの山々と見事な調和を展開、私たちを歓迎してくれました。

優雅なたたずまいの村の散策は、これ以上望めない好天にも恵まれ都会生活での疲れが一举に癒された感じ。

お楽しみは、湯の花温泉すみや亀峰庵の懐石料理。

会員の親睦は宴会が一番。カラオケも大いに盛り上がりリフレッシュ出来ました。

素晴らしい秋晴れに恵まれるのんびりと命の洗濯



紅葉映える研修バスツアー



お土産に京漬物を吟味するのも楽しみ



湯の花温泉すみや亀峰庵の懐石料理に舌鼓

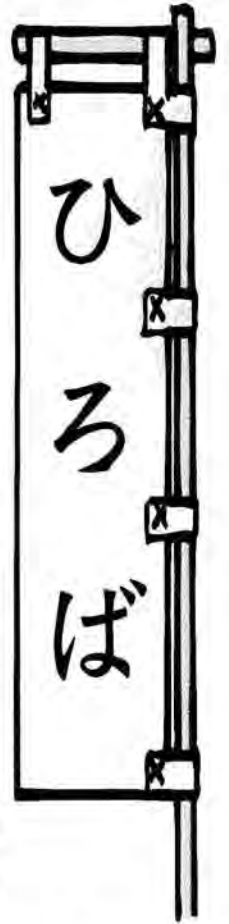
身も心もりつこっしょ



素敵なき声にヤンヤの喝采



とび入りの踊りで盛り上がるカラオケ



楽吟集

宮本 允子

(会員番号26)



先日、アサヒファミリイに連載の「新ユーモアタウン」の中で、織田正吉氏は「滑稽和歌」なるものを紹介されていた。

☆兄さんが出掛けるときに忘れ物靴のままにて置はうなり

また最近、大手保険会社が募集した短歌の優秀作を新聞で読んだ。

☆じいさんはどうしているの音楽会旅に観劇ばあさんばかり

これを読んだ途端、嬉しくなった私である。

短歌を真面目(?)に詠む人には叱られそうだが、これなら私にだって詠めそうだと思つたのだ。

その日から折りに触れて、頭に浮かぶ五七五の言葉を書き付け

た。鉛筆一本とチラシ一枚あれば楽しめる最も安上がりの趣味だ。何の値打ちもないが、生み出した迷作は、恥を覚悟で誰かに読んで貰いたい。古今和歌集をもじつて苦吟和歌集、いや、楽しんでるので「楽吟集」と名付けてみた。記念すべき第一首。

あほな和歌つきぎ脳を駆け巡りひとりニタニタ寝付けぬ夕べ

いつちよまえの歌人のように、言葉を入れ替えいれかえ苦吟する。そのうち夢も七五調で見たりして。幾とせも押し入れ占めたる空箱の溢れて今日は捨てんとぞ思う

地震後、家を再建したとき大ナタをふるって古い家具や物と決別した。スリムに暮らそうと決意したはずなのに、気が付けば捨てられぬ物がいっぱい。でも空箱って捨てた直後に要ることがあるのよね。

賞味期限過ぎたるミルク夫に注ぐ旨いといえば我も飲むなり

最近の若者はやたら賞味期限を気にする。戦中派の我々にとつて、賞味期限などあつてないようなもの。でも、ミルクは当たつたら恐い。そこで、愛する旦那さまに。

空になりしシャンプーのボトルに水入れてシャバダバダバもう一度二度

このようなこと大勢の方が経験者であるとは確信致しますが。えっ? そんなセコイことするのはあんたの家だけですって? 嘘つき!

個人情報どう間違つたかこの我にベントツはいかがとダイレクトメール

個人情報って何処からもれるの? わが家にはお墓や老人ホームの案内ばかり。成人式用にお振り袖をなんて絶対がない。なのに、お金もない免許もないこの私に「メルセデスベントツ」の優雅な写真が送られて来た。なんだか嬉しい。

悠々の六甲山のもよび

朝毎に仰ぐ六甲山は威大である。あの十一年前に起きた地震の時も泰然として芦屋を見守つていてくれた。

そして、春にはコバノミツバツツジがあちこちに咲きうす紅色の穏やかな姿となり。

夏には清悍な姿を呈し峰からは力溢れる入道雲が顔を出す。

秋には紅葉の全山に変身して遠目にも楽しむことができる。

冬には時折り雪をまとい厳然と下界を見つめている。

又あの逞しい六甲嵐を育ていやが上にもピシツと肌を感じている:

そんな大きな懐に抱かれて今日もシルバー人材センターに通い、会員さん達と心とませつつ仕事に励んでいる私である。

六甲の陵線凜と初詣



太田 兎子

(会員番号314)

会員の皆様お元気でお過ごしでしょうか。私はシルバー人材センターに入会して一年半になりました。おかげ様で毎日楽しく仕事に励んでおります。

大阪で昭和41年から鮎店と居酒屋を営業していましたが平成12年胃ガンが発見され3月胃と脾臓の全摘手術を受けました。

体力には自信がありません。体重が半年間に7kg減少、異常に気付いた時は病状が進行しており「半年前に診察を受けていけば手術しなくても良かったが、今は手術以外治療の方法はない。手術してもリンパ節に転移があれば深刻な状態だ」と言われました。

通常こんな死の宣告にも等しい事を言われた時に、頭が混乱し、茫然自失頭の中が真っ白になると

いいですが私は冷静に受けとめました。

これを機に三十数年営業した店を閉店。退院後当地に居住して5年になります。

手術後5年は要注意との事でしたが、それもすぎ、今は人生の余禄を快適に大切にすごしております。



発起人・北野 章
(会員番号977)
TEL 3 4 - 7 8 1 8

「なつメロ同好会」の

おすすめ

この間、胃の全摘のため起こる腸閉塞で2回、肺炎で1回(4ヶ月)、1年前には膀胱ガンで計5回の入院を繰返しております。その度に死

の淵を見ました。

内臓は健康な人の半分、体重は20kg減のままですが、今は元気に楽しくすごしています。

人生の第4コーナーを回った私達は体力の過信が異常の時の自己判断をせず一日も早く診断を受けましょう。早期発見こそ治癒の第

一原則です。

さて余談が長くなりましたが、

会員の皆様の中にはカラオケの好きな方も大勢おられる事と思えます。そこで「なつメロ同好会」のお勧めです。私がライフワークとして

しているなつメロの研究、考察、収集を始めて30年になります。平成3年には「懐メロ賛歌」を自費出版しました。その間大阪で「関西なつメロ同好会」を結成し、最終的に会員50人となり、毎月1回集まって(20名位)歌や会話を楽しんでいましたが、芦屋へ移住のため惜しまれつつ解散しました。

歌は心の点滴となり、いい顔、いい声、いい人生と申します。趣味の多い人程、人生を楽しく生きられると思います。人生を一緒に楽しみませんか。会員の皆様のご参加をお待ちしています。

又趣味としてアコーデオン演奏は

高校2年から始め、関西アコーデ

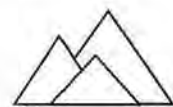
オン協会の会員でもあります。その後ボランティアとして各施設や特養ホーム、拘置所の慰問等二十数年今も活動中です。

なつメロは私達の青春賛歌です。

一芦屋 かるた一

<p>十 山深く 緑したたる 山芦屋</p>	<p>フ 童声 たなびく彼方に 潮芦屋</p>	<p>タ 大正の ロマンあふれる 六麗荘</p>
<p>ロ 六甲の ふところ涼し 山手町</p>	<p>サ 細雪 情緒流れる 芦屋川</p>	<p>イ 1.17 復興成った 陽光町</p>
<p>カ 川と山 交わる所に 奥池町</p>	<p>マ 松浜町 昔なつかし 松並木</p>	<p>フ 古い 面影残す 打出町</p>

太田 広 (会員番号833)



山歩き同好会 と同行して

05.9.18

九時前に阪急芦屋川のコンビニ前に集まったのは、江藤リーダー以下取材の私を入れて11名、内女性4名、80歳以上の高齢者3名ながら全員いきいき揃いの山歩きのグループであった。ちよつと蒸し暑く30度近い夏日だが、山歩きにはまずまずのお天気。目指すは荒地山（アレチと読む）標高549mであるが城山山頂（鷹尾山・263m）を経由して登り、芦有ゲートへ下りる、距離約5・5km、標準所要時間2時間30分の中級者向コースである。

九時になったので駅前を出発、芦屋川右岸に沿って歩き、高座川との合流点にかかる大僧橋を渡り、山芦屋公園を過ぎたあたりから勾配が少しきつくなり、会下の山遺跡へ向かう三叉路を右に折れて高座の滝方向に向かう。マンションの右手前の鷹尾山（城山古戦場）の案内看板の所を右折すると、人家の途絶えた所に車止めがあり、ここが城山への登山口である。

山頂まで2km余、緩やかなジグザグの山道を右へ左へ、遅れるメンバーもなくひと塊りとなつて愉快に冗談など

飛ばしながら上へ上へ、半分は来たかなと思つた所に、大きな倒木が横たわり、木製ベンチがあつて、ここで水補給の第一回休憩を七く八分とつた。芦屋市内がよく見渡せる所であつた。

我がセンターの山歩き会は、好きなもの同志が集まつて無理をせず楽しく歩き、特にルールを定めずいつでも疲れたら休むという極めて自然でのんびりした山歩きで、それでいて服装はきちつとした本格登山のものであり、中には10kmを越す荷物を背負つたベテランも混じつている。健康をモットーとする会員は是非参加を勧めたいと思う。



コース一番の難所・岩梯子

城山山頂には9時50分に着いた。芦屋市は勿論、大阪湾から神戸淡路島が一望のものである。毎年元日には市民は勿論、ポイイスカウト、各山の会他、個人・団体の人が大勢初日の出（7時10分頃）を拝みに登ってくるが、ここ数年曇り日が多く山の稜線から顔を出す太陽はなかなか拝めないでいる。

城山から荒地山への道は『馬の背』と呼ばれる細い尾根を登つたり下りたり、途中の休憩をはさんで三回目の休憩を取つた場所は、大勢の登山者で込み合つて前へ進めなかつた場所である。何と有名な『岩梯子』で左右の岩と岩の狭い間を、頭やリュックサックが頭上の岩に引っかかるように足場を探りながら一步一步慎重に登るから時間が掛かる。コース一番の難所である。

女子も重い荷物の人も無事通過して全員荒地山山頂についたのは12時5分前であつた。大きいシートを広げお昼の弁当となつた。背中に引っ付きそうになつたお腹に冷たいビールで乾杯、地獄の後の天国である。これを味わう為の重い荷物をものともせず山に登る人もあると聞く。食後のコンロで沸

かした熱い紅茶の一杯も最高であつた。

よく歩き、よく食べよく飲む、とてもシルバー年代と思えない、若者顔負けの山歩き同好会である。

荒地山549mの看板を背に記念写真を撮り、1時25分下山開始、下りは何度か沢を渡るが滑らないように、一步一步足場を固めて下りた。途中水場があり、傍に『松翁庵』と名づけた小屋があり、雨露をしのぎ寝泊りできる床も手作りされていて、自炊生活ができる立派なもので感激した。



荒地山頂にて、80歳以上3名を含む本日の会員

2時20分、山頂から約1時間で全員無事、芦有ゲートに着き、有馬から折り返して来た阪急バスでスタート地点の阪急芦屋川駅へ戻つた。

取材・一瀬奎次郎(会員番号410)

健康の秘訣

現役最長老93歳
湯川枝子会員の巻

年をとっても元気でいたい。思うことは誰でも同じ。皆さんもそれぞれ体に良い独自の方法を、日々実践されている事でしょう。

まず女性最年長の湯川さんから順に、その秘訣を紹介。長寿を保つための参考にして頂ければと思います。

問—湯川さんは93歳とお聞きしましたが、体の為には？

答—特別な事をしていません。日本舞踊とテレビ体操を60歳から続けていることぐらい。無理をせず自然体が一番だと思います。

踊りのポーズも、しなやかそのものの湯川さん

(会員番号76)



取材 笹部成推 (会員番号873)

自然体が一番

問—60歳から踊りを始められたのはなぜ？

答—勤めを止めたので、何か体を動かすことをと思い、盆踊りから始めました。テレビ体操は一人でもできます。じっとしているのが嫌いで、腰を掛けても足を動かすので、我が家の椅子はガタガタ。散歩も毎日1時間はたつぷりと。

問—好きな食物は？

答—昆布と野菜が大好き。とろろ昆布が有れば、おかずは要らないほど。

問—趣味は？

答—裁縫です。シルバー開設以来縫製班に参加。二十余年で半天など400着近く製作しました。同じシルバー会員の娘と二人暮らし。親子喧嘩はしょっちゅうです。けど、それが頭の体操になり、元気の証拠と割り切っています。



ペットご披露



吾輩の名は裕次郎 犬のような猫です

我が家のペットは当年とって3歳の猫の裕次郎です。3年前の5月、肌寒いとある夕暮れに駐車場の草むらにぼろ雑巾のように置かれていました。僅か160グラムの虚弱児です。獣医さんに掛りながら懸命に育てた結果やがて彼は凛々しく賢い大人の猫に成長しました。



アレルギーの私は、元々猫嫌いで最初触るのも嫌で「可哀想だから、連れて帰ろう」とタオルで包んで抱き上げた主人をとても恨めしく思ったものです。けれど、時にはツンとすましたり抱き上げようとしたらするりと逃げて「ここまでおいで」といたずら坊やのような顔をしたりする彼が可愛いとおしくなりました。犬の様に吠える事もなく、お腹が空いたり遊びたくなると、可愛くか細い声で「ミャーン」と啼いて甘える彼は、今ではすっかり家族の一員となり、我々にいつも安らぎを与えてくれています。

外出の用意を始めると、まるで「行かないで」とでも言うように私の足首に嘯り付いてくるので、掛かす。掛かりつけの獣医さんに「犬みたいな猫やな」といわれていました。駐車場に何故置かれていたのか判りませんが、母猫が育児放棄したのか、誰かがわざと置いていったのかも判りません。けれど、家族の大事な一員となった今、一日も長く幸せな日々を過ごして欲しいと、家族のみなが思っています。

大重 美奈子
(会員番号1024)

無添加フランスパン

ビゴの店

社長のフイリップ・ビゴさんをご存知の方も多い芦屋で、当会報「グルメコーナー」の第一号に選ばれた「ビゴの店」は、芦屋市シルバールのお隣りさんでもあります。

焼き上がりパンの香ばしい匂いの漂う店内で、取材に応じてくださったビゴさん。在日40年、芦屋で独立して34年。「最初はハンダリー精神でスタートした」といわずらっぱく、今度は真面目に、食文化は長い時間をかけて培われるもの、人は自然と共生してこそい

きられる。自然環境を大切にとの思いを胸にパン造りに励んで来た、関西弁を交えて話されます。

さて、おすすめは、30年来の天然酵母



自信のパンに囲まれたビゴさん

定休 月曜日
 本店 芦屋市業平町6番
 ☎ 0797-22-5137
 取材 北川知可子(会員番号557)



を使用した「ル・パン」。添加物は出来るだけ避け、自然発酵で焼き上げた人気のバケット。皮はパリット、中は柔らかな焼き具合です。その他、フランスパンの種類は実に豊富。ケーキ、焼菓子を贈り物にと評判です。
 阪神間に12店舗、午後になれば、ビゴさんの姿を見かけることも可能。気軽に話せてお買い物気分も盛り上がりますよ。

L・シ・ピ

鯛の山芋かけ蒸し物

◆材料 (2人分)

- | | |
|---------|---|
| 鯛2切 | うす塩をして酒を振りかけ15分置く 骨も取って置く |
| 山の芋200g | 皮をむいてビニール袋に入れてピンでたたく 1cm位の大きさが残る程度 |
| 昆布 | 切身と同じ位の大きさ2枚 1cm巾に切り込みを入れる 酒を振りかけてしめらせる |
| みつ葉 | 4本 |
| しめじ | 6本 |
| 梅肉 | 少々 |



- ◆作り方 1人前用の器に昆布を敷き、鯛をのせ脇にみつ葉としめじを置き、上から山芋のたたいた物をかけ流す。蒸し器の湯気が上ったら器ごと入れて20分中火で蒸す。魚に火が通ったか確認。上から梅肉を飾る。

※下ごしらえの酒は多い目に使う方が美味しい。塩も好みに合せて。

松田 瀬津子(会員番号851)

設立からの事業実績の推移

(単位：千円)



事務局からのお知らせ =平成18年度の通常総会= ルナホールで開催決定

今年は芦屋市民センター総会会場がうしろまで一杯になりました。

シルバー人材センターの総会は会員による、会員のための大切な行事です。

一人でも多くの会員に出席していただきたく、来年度はルナホールという広い会場で開催することになりました。是非ともご出席ください。

日時 平成18年5月25日(木)
午後1時30分から
来年のカレンダーに大きく
○印をしておいてください。

	会員数	平均年齢	最高年齢	就業率
男	310	69.8歳	83歳	89.0%
女	191	68.8歳	93歳	88.0%
合計	501	69.3歳	—	88.6%

平成17年11月30日現在



笹部 成推



一瀬 奎次郎



鈴木 一生



大重 美奈子



山本 徳高



北川 知可子

広報委員会

題字について

「はつらつ芦屋」の創刊に際して題字の筆耕を、男性会員最長老の幸谷和夫さんに依頼。幸谷さんは1990年度NHKの書道展・写経の部最高特別賞の受賞や、2002年には芦屋市長の依頼で愛子内親王誕生のお祝いの言葉を代筆するなど当センターでもご活躍くださいました。依頼時は体調がすぐれなかったにもかかわらず、快く筆を振るってくださいましたが、残念ながら平成17年10月23日、85歳で逝去されました。奇しくもこれが絶筆となりました。病床にありながら芦屋シルバー人材センターのために、最後まで尽力して戴いたことに、深く感謝し心からご冥福をお祈り申し上げます。

「はつらつ芦屋」の創刊に際して「会報」がないので何とか会員の手による会報を発行できないものだろうかと相談があつてから二年。やっと「はつらつ芦屋」が産声をあげました。呼びかけに応じて投稿して戴いた方々、ボランティアで活躍するスタッフ、事務局のきめ細かな配慮など、沢山の努力の賜物です。

心配していた原稿は、予想をはるかにオーバー。何とかページを増やして対応しましたが、一部は次号に回す事になるなど、本当に嬉しい悲鳴を上げました。さすが芦屋市シルバー。会員と事務局の協力で深く感謝します。

一つだけ残念だったのは、最大のイベント潮芦屋海岸の清掃ボランティアが雨で流れたこと。トップページを飾る予定をしていたのですが・・・今回は晴天になるよう今から祈っております。

会員のための会員が創る会報として、未永く可愛がって頂けるよう一同で頑張りますので、応援をよろしくお願いいたします。

編集後記

芦屋市シルバー人材センターの歩み

はつらつ芦屋第1号 平成18年1月1日発行・発行者・(社)芦屋市シルバー人材センター 〒659-10068 芦屋市業平町6番19号



設立総会の会場（昭和62年）



公光町の頃の事務所（平成5年2月まで）



震災前まで活躍した自転車再生作業



盛大に行われた10周年の記念式典（平成9年）



岩園公園の除草作業



創業以来の縫製事業の「はんでん」づくり



十数年に渡り管理を任されている岩ヶ平公園の見事なバラ



芦屋まつりで毎年手づくりの作品を販売



男性料理教室も人気